

## 頂いたお財布

岡田 静子

今年も鈴木よね刀自五十回忌御法要が、四月十四日祥龍寺で営まれました。昭和四十五年五月六日たつみ会より頂いた。三十三回忌御法要記念の御遺影は、紋付の着物を着て、めがねをかけていらっしやいます。左の胸に四つの勲章がかがやいています。そのしゃんとしたお姿はお優しい中にも、きりっとして侵しがたい感じを受けます。

よね刀自の事を鈴木商店では、お家様とお呼び申上げていたそうです。毎朝定刻に必ず店にお越しになりお家様のお部屋におはいいになったそうです。これは私如きが申すべき事ではありませんが、亡夫より聞きましたのに、昔々お店をしておられた頃、丁稚たちに毎日御自分で炭火で搔餅を焼き、又あられ餅を炒つて必ず三時のおやつに与えられたそうです。貧しい家の食べざかり、遊びたい盛りの子供たちを母の如きお心で、又この子等の生涯が何うなるかなどとお考への上での事と思われまします。人を使うのみならず幼い者を、一人の人間として大切にされたのだらうと、私は拝察しています。

お家様のお部屋は二階にあったそうです。南に面した大きなガラス窓であつたらうと想像いたします。いつも整理整頓され、鈴木商

店の重役たちと、海外の支店出張所、貿易の事国内の取引の事、店の経営の事等毎日お聞きになり、御自分も御意見をのべられ、度々会議もなされた事と推察いたします。

海岸通十番地の二階の窓からは、右手にメリケン波止場、港内には大きな外国船がいくつも碇泊していた事でしょう。洋館の多いこの通りを自転車、人力車が走り、外人も行き来した事と思われまします。今は港の様子も変わってしまった様です。

よね刀自の還暦のお祝いといつて、お家様の丸帯で作られたお財布を亡夫が頂いて来ました。色は渋い茶色で地紋があり、唐草模様がかがやいています。裏は紫色の塩瀬で三ヶ所入れる所があり、まだスナップの無い頃なので、足袋のはぜの様な止め方になっています。こはぜの所は銅が使っています。丸帯一本からいくつのお財布が作られたのでしょうか。店員一同に頂いたそうです。その頃、一円、五円、十円、二十円の紙幣があつたと思われまします。我々には二十円札はめつたに手にした事のない時代でした。私はこの得難いお財布をお金で汚したくなかつたので、筆筒の奥深くしまっていました。幸に筆筒は二階にあつたので水害をまぬがれました。戦争末期になり布団袋一箇、大きな柳櫃一つに少しの衣類と共に田舎に疎開した為戦災にもまぬがれました。今は数珠を入れて佛壇の引出に入れておられます。

四月十四日十二時三十分、私はこの財布の中の数珠を手にかけて、御遺影の前で、鈴木よね刀自の五十回忌御法要の黙禱をささげました。

## 斎藤東京支部長急逝さる

### 弔辞

謹んで、斎藤席吉様の御霊前に、弔辞を捧げます。

あなたは、去る六月十日、八十八歳の天寿を完うされ、卒然としてご逝去なさいました。

承れば、先月二十五日、ご崇敬されて居られました、故西川政一様の一周年に参列されるべく御準備中、突然気分を悪くされ、急遽ご入院され、最近はお康を得られ間もなく、ご退院されるものと存じ居りましたのに、突然のご訃報、驚愕この事でございます。

あなたは、大正六年、鈴木商店へご入店になられ、その後昭和三年、日商の創立に参加され以後、ご退職まで、お元氣にご勤務されました。

昭和二十四・五年頃、東京においては、西川政一さんその他の方々が、辰巳会の小会合をもつて居られました。当時、あなたは名古屋勤務で、高橋半助さんを中心に、五・六名の方々と、ABCクラブで時々集合されて居られました。

